

令和元年度（第2回）久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日 時：令和元年7月12日（金）

場 所：職員会館メルクス 3階 大会議室

出席者：福田会長、吉永副会長、仁田原委員、白石委員、小坪委員、吉田委員、野村委員、馬場委員、中村委員、田中委員、永松委員、稲吉委員、市川委員、森永委員、高良委員、矢次委員、高尾委員、半田委員

以上 18 名

（欠席者：溝上委員）

事務局：農政部 山口部長、山手次長、森山参与

農政部農政課 堤課長、林田主幹、田川課長補佐、松延主査、長野、生産流通課 角課長、みどりの里づくり推進課 古賀課長、植田主幹、農村整備課 松尾主幹、農業委員会 横溝局長、中央卸売市場 中山市場長、田主丸総合支所産業振興課 井上課長、北野総合支所産業振興課 小坪課長、城島総合支所産業振興課 大坪課長、三潞総合支所産業振興課 塩足課長

傍聴者：なし

次 第：開会

1. 会長挨拶
2. 第2期久留米市食料・農業・農村基本計画の総括
 - (1) 基本施策Ⅰ「農業・農産物への理解促進」
 - (2) 基本施策Ⅱ「効率的で安定的な農業経営体への育成」
 - (3) 基本施策Ⅲ「競争力のある産地の育成」
 - (4) 基本施策Ⅳ「持続可能な農業生産基盤の確立」
 - (5) 基本施策Ⅴ「多面的機能の発揮と農村地域の活性化」
3. 情報提供

開会

1. 会長挨拶

福田会長	あいさつ
------	------

2. 第2期久留米市食料・農業・農村基本計画の総括

事務局	【配布資料 事業評価シート 基本施策Ⅰの説明】
-----	-------------------------

A委員	先ほどの説明でくるモニの調査結果と言われたが、くるモニとは何か。
事務局	毎年市が実施している市民を対象としたアンケート調査である。

A委員	地産地消を意識している中で、20～30代の男性が平均より40ポイント程低いと言われたが、地産地消を意識してもらいたい世代にターゲットを絞ったらどうか。例えば買い物世代に周知すれば、消費が進む可能性も考えられる。
B委員	全体の底上げを行うより、ターゲットや場所・場面に応じた周知方法を考えることが必要と思う。例えば、中食産業の中で、地元農産物等を使用したメニューの提供など、地産地消から縁遠い人達に周知するような方法も良いのではないか。
事務局	現在、男性向けの料理講習会等を行っているが、参加者は年齢が高く、若い参加者が少ないので、今後、どのような周知方法が効果的か考えていきたい。
C委員	食の安全に関心が高い子育て世代をターゲットにすることも良いと思う。
事務局	ターゲットを絞ることも考えていきたい。
D委員	GAPを取得しても、広告・表示などPRができないため、農家にとってメリットもなく、認証後も負担がかかっている。GAPの推進について、市ではどのような取り組みを行っているのか。
事務局	国・県の補助事業の対象外となっている水質や土壌の検査に対して補助支援している。補助率は2分の1で、H30の実績は、3団体である。
E委員	中央卸売市場では、平成6年度をピークに、売り上げが減少している。これは、久留米市民が食べる物が、他市場から入ってきていることが原因の一つと思う。 地産地消を推進するのであれば、地元市場が力をつけ、以前の市場規模に戻れるような強化策を考えていく必要があると思う。 また、食の安心・安全についても、考えてもらいたい。
事務局	売上が減少した要因としては、流通構造の変化により、大手の量販店が市場を通さずに、直接生産者等と取引されるなど、様々な原因が考えられる。 久留米市中央卸売市場は、他の市場と違い生産地の市場であり、地元の農家が安心して出荷し、安心して食べられるよう、卸売・仲卸・バイヤー等、関係機関と一体となって市場を活性化し、地産地消に取り組んでいきたいと考えている。
D委員	現在、久留米大学・仲卸・バイヤー等と「久留米野菜」として市場に出せるよう、様々な取り組みを検討しており、その1つとして今朝採り野菜をスーパーに置くなどの取り組みを実施している。 今後も、久留米産農産物が、「どうしたら売れるか」を、JAと連携して行っていきたい。
F委員	GAP取得には魅力を感じておらず、出荷量を重要視している。 最近では、市場に出回っている野菜の流通量より、カットされた野菜の流通量の方が多いのではないかと考えている。GAP認証よりもハラル認証などインバウンド系を推進してもらいたい。ニッチな分野なので、加工業者や生産者も、取り組みやすいのではないかと

G委員	有名なホテル等の施設に売り込みをすることでGAP自体をPRしなくても、久留米産農産物の付加価値が上がるのではないかと考えている。
事務局	【配布資料 事業評価シート 基本施策Ⅱの説明】
C委員	地域によっては法人化が中々進んでいない。公的機関が出資して法人化を進めるなど、新たな形態を考えていく必要があると思う。
H委員	認定新規就農者には、無担保無利子で最大3,700万円の融資など、様々な支援をしているが、融資先の経営状況を見てみると、目標達成は2～3割しかなく、多くの方は苦戦している。 新規就農者は、地域とのつながりも大切で、就農者同士のネットワーク構築支援等も経営の向上につながっていくのではないかと考える。
I委員	今後は、集落営農組織の法人化だけでなく、大規模園芸農家の法人化の推進に取り組んでいく必要があると考えている。 また、女性農業者の推進として、隠れた人材の発掘をしたいと考えている。

事務局	【配布資料 事業評価シート 基本施策Ⅲの説明】
C委員	近年は、飼料用作物のWCSが増えてきている。牧草の状態出荷するのと、丸めて出荷するのは、どちらでも良いのか。
事務局	WCSについては、本人からの自己申告による確認野帳の修正をしているが、今回の意見を踏まえ、状況を確認する。
A委員	緑花木の振興について、消費者ニーズは、どのような調査で把握しているのか。
事務局	「緑化センターよ花っ祭」等で、アンケート調査をしている。 また、アンテナショップ等でもどのような物が好まれるか調査をしている。
A委員	緑花センターや市場、ホームセンター等で、どのような商品が売れているかなど、売れ筋調査も必要と思う。
I委員	労働力の確保について、外国人技能実習生のへの賃金が、固定経費となり経営が厳しくなっている。今後は、農福連携、ボランティアバイト、短期雇用などの人材活用のあり方について、幅広く検討していく必要がある。
J委員	介護分野はベトナム人やネパール人が多く、国によって入ってくる人材も異なる。農業分野も、どのような国が農業に適しているかなどリサーチをし、農福連携など他分野とのマッチング事業も必要と考える。
B委員	ブランド化の推進について、「久留米産農産物の魅力を広く市民に認識してもらうこと」を目標とし、指標として「くるモニ」を活用しているが、ブランド力を測る対象としては、市民ではなく、全国に向けてだと思ふ。 市内限定の調査ではなく、調査範囲を広げる必要があると思うので、次の基本計画では検討してほしい。
F委員	スマート農業についての具体的な事業案があれば教えて頂きたい。

事務局	現在のところは、個別に農家を支援する事業はない。まだ実験段階のものが多くと聞いているが、農家から要望があることは県に伝えている。
I 委員	県では、県内 28 箇所環境整備機器を設置し、試験を実施しており、それを基に、指導者向けのマニュアルを作成中である。 また、国のスマート農業実証プロジェクトとして、北野町や小郡の 3 人の葉菜類のグループで、AI と IOT を活用した野菜生産作業の効率化等に取り組んでいる。
K 委員	6 次産業に取り組む際、機械を導入する前に試験をした方がよい。今まで補助事業を使って機械を導入した方が分かるマップや、実際の試験場のようなものを造ってもらいたい。
事務局	補助事業の中に、試験的に活用する場合の機械の貸出しに対する補助もあるので活用いただきたい。
I 委員	某厨房メーカーでは、テストキッチンとして利用出来るところもあるので、後ほど紹介させていただく。 また、県では、農業大学の加工施設を改修して、一般利用出来るようになっているので、活用いただきたい。

事務局	【配布資料 事業評価シート 基本施策Ⅳの説明】
A 委員	耕作放棄地は、無理に生産せず、農村の景観を売りにして、観光に生かす農業を行うのも良いと思う。 また、ため池が埋め立てられ、農村地域の保水能力が低下しているところもあるが、自然の資源が多く残っているエリアを上手く活用して人を呼び、自然に親んでもらう様なものを、次の基本計画で考えてもらいたい。
事務局	ため池が持つ保水能力は必要と考えているため、今後も、安全なため池を管理していくため計画的に整備していく。
事務局	耕作放棄地が多い山間部等では、耕作しにくいという現状もあり、草刈などの管理指導をしている状況である。今後は、JA 等の関係機関と課題を共有する農地利用最適化協議会の中でも対策を検討していきたい。
G 委員	前回、耕作放棄地を活用したそばの生産について青年部の取り組みを紹介したが、生産するだけではなく、収穫したものをどう活用するかが大切であり、山本町のそばについては、今後、そばの花を見ながらの親子そば打ち体験を計画している。
C 委員	農業施設の改修等については、どこに相談したらよいか
事務局	農村整備課に相談を。
L 委員	水路の土手が崩れ、水が流れないところがある。どこに相談したらよいか。
事務局	農村整備課に相談を。

事務局	【配布資料 事業評価シート 基本施策V説明】
M委員	くる農や農家民泊等の受入体制整備に対して、ハード的な支援はあるのか。 また、くる農の参加実績は、約400名とのことだが、市内・外の内訳はどうなっているのか。
事務局	現在は、受入れ農家に対する、ハード的な支援はないが、研究していく。くる農への参加内訳は、市内外半分程度である。
C委員	多面的機能事業により、水路の溝がきれいになった。今後も続けて欲しいが、高齢化が進んでおり心配している。
事務局	今後、農家以外の地域住民等も巻き込みながら、活動できるよう支援していきたい。
L委員	農家民泊の受入れを行っているが、ありのままの状態でおもてなしをしている。受入体制の整備支援があれば、収益の増加など、更に良い活動ができると思う。
G委員	年3回くる農で受入れを行っているが、毎年リピーターも増えている。くる農などの農業体験は、「また行きたい」という雰囲気作りが大切と考えている。 緑花木の推進としては、今後進出してくる資生堂の活用し、椿のPRをこちらから投げかけるのもよいと思う。
N委員	道の駅くるめの特徴は、①筑後川の土壌で生産された元気な農作物が豊富である、②緑化センターが隣接している、③自然や歴史などの地域資源が多い耳納北麓地域の拠点施設である、と言われている。お客は農産物に関心の高い人が多いので、久留米産農産物をPRする場として、行政だけでなく皆さんにも、道の駅をもっと活用してもらいたい。
A委員	今年の春、道の駅で共同イベントを行い、好評であった。人が集まれば、地産地消も広がるので、歴史などの資源も活用しながら久留米独自の仕掛けを作っていきたい。
福田会長	施策の指標の評価について、統一されてないと感じる。評価の方法を再検討した方が良いのでは。

3. 情報提供

事務局	プロモーション動画による久留米産農産物の紹介について
N委員	道の駅総選挙について（スイーツ総選挙）
事務局	第41回久留米市人権・同和教育夏期講座案内